

19回

## 音程と音階について ～音と音との関係を知る～



講師  
青島 広志

### 学習のねらい

音には、それぞれ音名という名前が付けられています。また、2つの音同士の高さの隔たりを音程と呼び、さまざまな広さが作られます。和音は3つ以上の異なった音が同時に鳴ったときの響きのことです。2つの音程の違いによって雰囲気が変わり、旋律に彩りを与えます。これらの知識を持つことによって、音楽を感性の面からだけでなく、理論的な面からもとらえることができるようになり、その曲が何を表しているのかを理解する力となるでしょう。

### 音同士の高さの隔たり「音程」について知る

まず音に付けられている音名を覚えましょう。世界中で最も多く使われている音名は Do、Re、Mi、Fa、Sol、La、Si のイタリア式音名ですが、これは 1000 年ごろにグード・ダレツォにより「聖ヨハネ讃歌」から採られました。ほかにドイツ式、日本式の音名も用いられます（譜例 1）。

譜例 1



イタリア式	ド Do	レ Re	ミ Mi	ファ Fa	ソ Sol	ラ La	スイ Si
ドイツ式	ツェー C	デー D	エー E	エフ F	ゲー G	アー A	ハー H
日本式	ハ	ニ	ホ	ヘ	ト	イ	ロ

音程は2つの音の高さの隔たりのことで、いくつの音にまたがっているかを示す数字と、その前に付けら

れている広さを示す言葉（長・短／完全／減・増）を組み合わせて示します。全く同じ高さを完全1度、1オクターブ上または下の同じ音は完全8度と呼ばれます。

2度には広い全音と狭い半音があり、それぞれ長2度、短2度と呼ばれます。3度以上は、半音の含まれ方によって呼び名が変わり、3・6・7度は狭いものが短、広いものが長、4・5度は狭いものが完全、それより狭いものが減、広いものが増と呼ばれます。実際に鍵盤楽器で音を確かめて覚えてください（譜例2）。

譜例 2



このページの文書・画像の無断転載及び商用利用を固く禁じます。

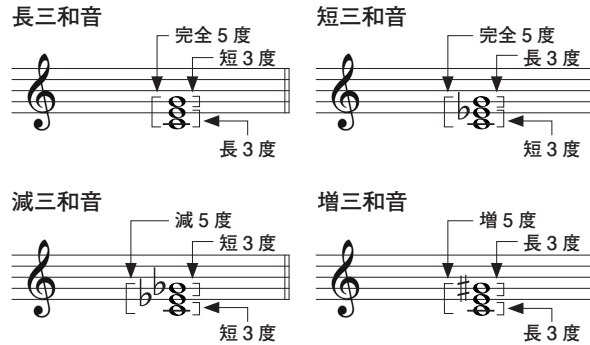
### 音が同時に鳴ったときの響き「和音」の構造を知る

2つの異なった音が同時に鳴った状態は、正確には**重音**と呼ばれ、3つ以上の場合を**和音**と言います。さまざまな組み合わせが考えられますが、西洋音楽の中心となってきた和音は、ある音を根音（最低音）として、3度ずつ2回積み重ねたもので、**三和音**と呼ばれます。

三和音は和音の基本となる響きで、4種類が作られます。すなわち長三和音、短三和音、減三和音、増三和音で、それぞれ明るい・暗い・陰気・膨張といった感じを与えます(譜例3)。

3度ずつ3回積み重ねた4つの音からなる和音は、一般には**七の和音**と呼ばれ、属七の和音（曲を終わらせる）、減七の和音（恐怖や激しさ）が代表です（譜例4）。曲を聴いてどんな和音が使われているか調べてみてください。

譜例 3



譜例 4

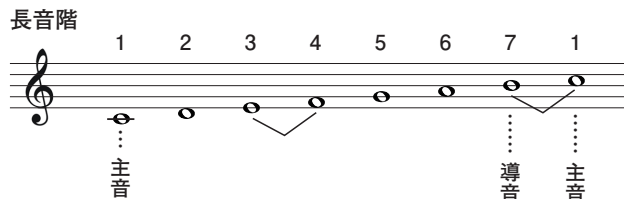


### 音階（短音階・長音階）の性質を知る

音を階段状に、低いものから高いものへと順に並べた連なりを、**音階**（スケール）と言います。これもまた民族や時代によってさまざまな音階が使われてきましたが、現在、主流となっているのは、7音からなる長音階と短音階です。音階の始まりの音を**主音**と呼び、主音の半音下にある音を**導音**と呼びます。

**長音階**は明るい感じを持ち、その雰囲気は下から数えて3-4、7-1番目の音程が短2度（半音）であることから生まれます（譜例5）。

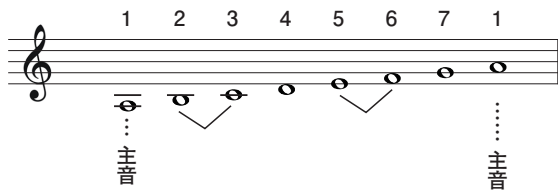
譜例 5



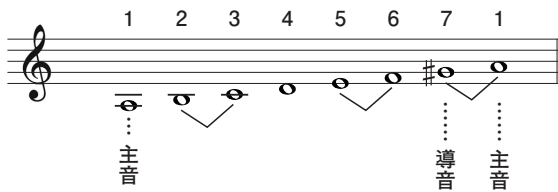
短音階は暗い感じで、もともとは2-3、5-6番目の音程が短2度です。この形を**自然的短音階**と呼び、終わりの7-1が長2度のため終わった感じがしません。そのために第7音を臨時に半音上げる方法が用いられ、これを**和声的短音階**と呼びます。しかし、このままだと6-7の間隔が広がりすぎて歌いづらくなるので、第6音も半音上げて歌いやすくし、下降するときは自然的に戻すという、**旋律的短音階**が多く用いられています（譜例6）。

譜例 6

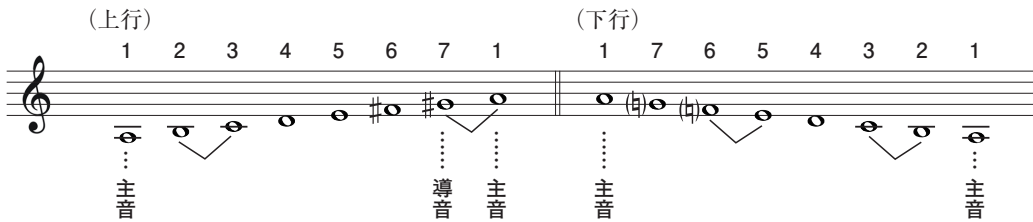
自然的短音階



和声的短音階



旋律的短音階



**♪ 今回取り上げる曲 ♪♪♪**

● 「ドレミの歌」	作曲：リチャード・ロジャーズ
● 「聖ヨハネ賛歌」	作曲：グイード・ダレッツォ
● 「キラキラ星」	フランス民謡
● 「すみれ」	作曲：モーツァルト
● 「河は呼んでる」	作曲：ギイ・ベアール
● 「トロイカ」	ロシア民謡